



学校だより

第396号 12月号
横浜市立みだけ台中学校
令和元年11月29日

YY-NET 公式サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/mitakedai/>

12月に向けて

副校長 岸川 雅郎

令和になり半年が過ぎました。雨の日の多かった秋が過ぎ、いよいよ冬が来た感じです。1年のうちでも1番最後の月、12月が始まろうとしています。学校の終わりは3月です。2019年が始まったときには昨年の反省を生かして、今年はこの年で頑張ろうと考えたことでしょうか。2019年をしっかりと振り返って、新しい年のスタートを切りましょう。

今年もいろいろなことがありました。最近では、ラグビーワールドカップも盛況に終わり、来年のオリンピック・パラリンピックに向けて準備が進んでいます。また、吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞されます。日本人のノーベル賞受賞者は昭和で7名、平成で19名受賞され、令和になり吉野先生が受賞されます。12月10日の授賞式で先生のスピーチが楽しみです。これからも日本人のノーベル賞受賞者が数多く出てくると思います。日本の科学技術が世界に認められた証拠だと思います。いろいろ課題はありますが、日本で行われてきた人材育成、研究が成果を出してきたことだと思います。明日の日本を担う子供達がいかに成長するか楽しみです。人との付き合い方、自然との向き合い方、いろいろなことを学び、行動することで社会に役立つ人材育成ができるのではないのでしょうか。いろいろな場面で活躍できる大人に育ってほしいです。

本校では11月にいろいろな行事がありました。3年生は試験が2回あり、それに続き進路を決める大切な面談が待っています。1年生の時からキャリア教育として、1月には職業講話を、2年生では11月に職場体験を行いました。そして3年生では卒業後の進路選択を行っています。成績等も大切な条件ですが、自分がどんなことを将来行いたいのか、どんな方面に興味を持つかなども重要な選択の条件だと思います。家族でしっかりと相談をして、面談に臨んでください。

2年生は職場体験を行いました。昨年より2日間の取組です。事前の電話から事前訪問、本番の体験、お礼状の作成を行いました。訪問するためにマナーを覚えたり、お礼状の書き方を学んだり、何より初めて会う人に仕事を教えてもらったりと、職場の体験だけでなく社会人としての基本を学びました。いろいろな場面で緊張の連続でした。はたらくことの意義・大切さがわかったと思います。

今年度もあと4か月で3年生は義務教育を終え、1・2年生は進級します。子供たちの成長をしっかりと後押しできるよう、これからも本校の教育活動にご理解・ご協力をお願いします。



児童生徒交流日

10月28日(月)5・6校時にオープンスクールを実施しました。鉄小学校・みたけ台小学校の6年生と保護者の方を対象に、授業見学をしていただき、その後、6年生には部活動体験をしてもらいました。中学生も将来の後輩と共に、和気あいあいと活動を共にしていました。

職場体験

11月6日・7日に2年生が職場体験を行いました。大型店舗・老人ホーム・小学校・幼稚園・消防署など38事業所の方々にお世話になり、それぞれの職場で貴重な体験をさせていただきました。ご協力いただいた事業所の皆様、本当にありがとうございました。



地下鉄車両基地



スーパーマーケット



スポーツクラブ



区役所



衣料品店



幼稚園



喫茶店



老人ホーム



保育室

<感想>

○初めて職業を体験してみて、最初に感じたのは、お金をもらう大変さが分かりました。また、活動が分単位で決まっていて、個人としてではなく、集団として動いているのを見て、働くことの意義ややりがいを感じた。(1組)

○今日は、なしかちゃん広場というところに行き、いろんなゲームや紙芝居を見たりしました。ペアの子と楽しく遊ぶことができよかったです。ペア以外の子とも話したりして関わることができたので、昨日よりも仲良くなれて良かったです。子どもたちがすごくなついてくれてうれしかったです。(2組)

○一人だったので、始めは少し緊張したけど、お店の方が丁寧に教えてくださったので、充実した時間だった。パンの生地を大きさに切って、のばしてそれぞれのパンが完成するまで、ほとんどが人の手で作られていて、すごいと思ったし、お店の方々が1つ1つ心を込めて丁寧に作っているんだというのが伝わってきた。(3組)

秋の読み聞かせ

11月1日(金)に全校読み聞かせがありました。ボランティアの方々に各クラスへ行っていただき、本や絵本を朗読していただきました。生徒は、吸い込まれるように聞き入っていました。ボランティアの皆様、ご協力ありがとうございました。



全校道徳

(人権講演会)

11月26日(火)に被爆体験伝承者の木谷富喜子様を講師にお招きし、全校生徒を対象に、ご講演をいただきました。広島市立基町高等学校の生徒による再現絵画や地図をプロジェクターで写しながら原爆投下前後の広島の様子や痛ましい体験についてお話しいただき、平和の尊さについて改めて考えさせられました。

＜生徒の感想＞

○今までテレビや本でしか知ることのなかった原爆のことを実際に話で聞くことでその残酷さや辛さや悲しみがとても伝わってきました。富喜子さんが植えてくださった種を大事に育て、絶対にもう同じことは繰り返したくないと思います。(3年生)

○自分はいつも原爆の話を受業でやるたびに心が痛く、もう絶対に原爆はおこってはいけないものだし、おこさないようにしていくものであると思いました。核兵器の数を聞いたときは驚いたし、こんなものは早く無くさなければいけないと思いました。自分たちは後世に原爆のことを話し継いでいきたいと改めて思いました。(1年生)

○木谷さんのお話の中に被爆された男性が両親にうみをとってもらったシーンがあったかと思えます。実は私の左耳にもバイキンが入ってうんでしまったところがあります。母親にうみをとってもらいましたが、すごい激痛で近所迷惑になるほど泣き叫びました。その経験があるので、そんな思いをもう2度としないようにこれから核兵器の絶滅をどんどん伝えていきたいと思えます。(2年生)



SEPRO

SuperEnglishProgram

11月25日(月)から3日間にわたってSEPROが行われました。青葉区内各学校のAET5名に来校してもらい、学年・クラスごとのレベルに合わせたプログラムを組んで、ジェスチャーゲーム、クイズ、FreeConversationなどに興じました。AETの先生から『仲の良さが感じられ、会話を楽しむ英語力がある。』とお褒めの言葉をいただきました。

